

向陵中学校改築検討協議会議事概要

1 日時

令和4年(2022年)7月21日(木)14:00~16:10

2 場所

向陵中学校 3階会議室

3 出席者

別紙のとおり

4 協議会内容

(1) 協議会の在り方や議論の主旨について

本協議会の在り方として、会自体(議論の過程)は非公開とするが、最終的な結論や結果といった一定の内容については公開することとした。

また、協議会は、それぞれの立場や利害関係は全く関係のない議論の場であることを確認した。

今回の協議会の最終目標は、子どもたちのためにという観点から、③案が①案を上回るかどうか、各検討委員の意見を踏まえ、協議会として最終的な判断をすることとした。

(2) 前回の協議会で出た質疑に対する回答について(学校施設課長)

配布資料(向陵中学校改築検討協議会(R4.7.4)で出た御質問・御意見一覧)に沿って、前回協議会で出た質疑に対し、回答を行った。

(3) 協議

質 疑	回 答
格技室の高さはどのような想定か。また、入口等に段差ができることになるか。	高さは2階相当で、段差は生じない計画。
体育館の高さはどうなるか。低いと窮屈になるので、ある程度の高さがあると良い。	面積は大きくなるが、高さについては既存の体育館と変わらず9m程となる想定。
①案は学校としての眺望が良くないのに対し、③案は教室が南向きで円山が見える。制約なく、自由に建てられるなら、①案ではなく③案のような配置にするはず。	眺望に関しては、③案は南側の住戸と面するため、眺望が優れているとはいえず、①案では、東側は環状通、西側はグラウンドとどちらも開けた眺望となっている。 また、教室の配置については①案は既

	<p>存校舎よりも環状通からセットバックした配置であり、学校からも東側の教室の騒音等については問題がないと聞いている。</p> <p>普通教室の配置については、両案とも、学習環境においてメリット、デメリットがあり遜色はないものとする。</p>
<p>増築に関して、③案はスペース的に余裕があるが、①案はできないのではないかと。</p>	<p>①案については、体育館の横に増築を行う想定である。</p> <p>ご指摘のとおり、③案の方が増築としてはきれいに収まると考えるが、改築後は増築とならないよう、普通教室に転用可能な教室を多く設けるよう計画している。</p>
<p>①案は体育館が3階であり、1階の格技場等のスペースだけでは選挙に対応できない。また、体育館が3階にあることで、荷重に耐えるだけの構造にしなければならず、費用も上がるはず。</p> <p>また、音の問題も発生するため、体育館下の2階が使えない。</p>	<p>選挙の際には、格技場だけでなく、多目的室やホール等を一体的に利用することで、選挙運営も問題ないと認識している。</p> <p>費用については、体育館を1階に設けた場合と比較して3階に配置すると躯体部分に必要な工事費は約3,500万円上がる。その一方で、体育館の下の階に諸室を設けることで建築面積(建物を真上から見た面積)が約25%減少するため、地盤改良工事、土工事の面積が減少することにより約4,500万円の費用減を見込んでいる。</p> <p>建築面積、屋根面積が減ることにより防水改修面積も減るため、トータル約1,000万円の費用減を見込んでおり、総合して体育館を3階にした方が、費用は安くなる見込みである。</p> <p>音・振動については、遮音性の高い床材を使用することで、音の影響を軽減することを検討している。なお、全国的にも同様の事例は多くあるため、実施設計の中で適切な鋼製床を検討していく。</p>
<p>③案だとグラウンドが使えない、という教育委員会の説明だが、工程や仮設校舎を建てる場所等を工夫すれば仮のグ</p>	<p>③案において、校舎に先立って屋内運動場を建てる工程とした場合、工事を段階的に進めざるを得ないため、全体工程</p>

ラウンドを確保できると考える。	が1年程度延びてしまう。
<p>③案についても、グラウンドが必要なのであれば、中庭をなくすことで800㎡程増やせる。</p>	<p>③案において、中庭を潰すことでグラウンドを広く確保することは可能ではあるが、風通しや採光については、中庭を通して確保する計画となっており、中庭をなくすことで逆に教育環境の悪化につながる。</p> <p>屋内運動場のエリアを整理し、環状通側に配置をずらした場合においても、一定程度グラウンド幅は確保できるが、①案の方が長さも幅も確保した形状となる。</p>
各委員の意見	
<p>学校としては、子どもたちのためという観点が一番優先である。学校は子どもたちの思い出の原点であり、ふるさととなる。仮設校舎は、暑さ寒さといった観点において、既存校舎や改築後の校舎に比べると条件が劣ると考えるため、中学校生活の丸3年間を過ごす子どもたちが出ないようにしたい。</p> <p>グラウンドについても、わずかでもグラウンドがあることで十分な運動場所の確保とはならないまでも、基礎的な運動スペースとしてや、体育館と分散して活動を行えるなど、子どもたちの運動活動に間違いなくプラスに働く。公共施設を利用することは、金銭面で大きな負担となり継続的に利用することは難しい。近隣の小学校を借りることについても、移動の際の交通事故のリスクが生じてしまうことから、できる限り避けたい。</p> <p>子どもたちのためという観点において、学校としては①案を支持する。</p>	
<p>仮設校舎がかわいそう、というのは情緒的であり具体的な内容がない。何がかわいそうなのか整理し、仮設校舎でもその観点を解消できるよう検討すべき。</p>	
<p>(③案でも、グラウンドを確保できる、という他の委員の発言を受けて)</p> <p>③案でも仮設校舎や工程を工夫すればグラウンドを確保できる、ということだが、工期が長くなり費用も更にかかってしまう。</p> <p>新校舎のグラウンドの大きさについても、①案と③案では1,500㎡程差があり、教育環境上①案の方が優れていると考える。</p>	
<p>給食室の横幅が①案8mに対し、③案が11mとなっており③案の方で3m程小さくする余地があるのではないかと考える。総じて検討が足りないと思う。</p>	
<p>設計の専門家でもないのですが、建築の細かい内容について理解は及ばないが、札幌市としてもこれまで同様の検討をしてきているはず。各論的なやり取りは、この場においてこれ以上すべきではない。</p> <p>①案は選挙の時に困る、体育館を3階にすることで振動や強度の問題が発生する、③案の方が安い、③案でも工期や仮設校舎の建築位置によってはグラウンド</p>	

を使える、といった意見に対して、札幌市としてしっかりと回答を行い、合理的な見解が示されれば良いと考える。

①案が良い理由として、体育館が3階にあること。災害の避難場所になり、洪水ハザードマップではこのエリアは浸水する想定であることから、1階ではなく3階に体育館があることが避難場所として最適であると考え。また、体育館の音の問題についても、クッション性のある床材を使用することで、大きな問題にはならないはず。

③案でも、仮設校舎期間中にグラウンドを借りれば良いと簡単に言うが、近隣の小学校ではグラウンドの広さの問題があり、移動する際の交通事故のリスクも生じることもきちんと考えた方が良い。

③案だと仮設校舎を丸3年間使用することになるが、1年でも2年でも既存校舎や新校舎で学べる機会を作れるよう、子どもたちのために考えるべき。

生徒に意見を聞いていないということであるが、昨今LGBTQプラスの問題が騒がれているが、そのような生徒にどのようにして安全、安心に学校生活を送ってもらえるか、考えていくことが大事ではないか。また、その考え方が災害時の避難所運営にもつながる。すべての子どもたちの幸せを考える中で、結果的に地域の人にとっても安心、安全な学校施設となっていくと思う。

生徒を対象としたワークショップを開催し、自分たちがその校舎に過ごせないとしても、少しでも改築に関わったという学びや喜びを得られれば良いと思う。また、大人たちが勝手に仮設校舎はかわいそう、と決めつけるのではなく、このような機会を設けて、子どもたちがそれでも新しい校舎のため、と判断するのであれば良いのではないか。それが子どもたちのため、ということではないか。今の改築案に対する考え方は、向陵中学校の校訓である明朗闊達に反するのではないか。

札幌市の中でも有数の大規模校である向陵中学校の改築については、今後の札幌市の改築事業におけるモデルケースのような事例となれば良いと考える。

教育環境上どちらが合理的な案か論じ、結論を導けば良いと考える。

向陵中学校には、文武両道で様々な活動を行ってほしい。

向陵中学校は遠友塾の利用もあるため、遠友塾の今後の利用を踏まえても①案が良いと考える。

制約が全くないのであれば、理想的な改築案のみを考えれば良いが、実際には制約もある中で考えられた案だと考える。①案に関しては、工期が短く、既存校舎も継続して使用できるため、中学生の多感な時期である子どもたちへのストレスを和らげられ、グラウンドの一部利用も可能であることから、保護者として①案が良いと考える。

①案が良いと考える。設計者がベストであると判断した前提ではあるが、①案においては、グラウンドの大きさ、仮設校舎の有無等優位性があると考え。

<p>工事中の音もうるさいと思うが、仮設校舎での騒音対策と既存校舎での騒音対策では、レベルが違うと思うので、やはり既存校舎を使用できる①案の方が子どもたちのためには良いと考える。</p>
<p>各委員の結論</p>
<p>仮設校舎について、①案においては日常的に使う普通教室については、既存校舎を使用でき、一部の特別教室のみ仮設校舎となる。部分的な仮設校舎であれば、仮設校舎の建設費にそれほどお金がかからないだろうし、お金がかからない分教育環境の充実を図ってほしい。 改めて学校としては①案が良いと考える。</p>
<p>③案にメリットがないわけではないと思うが、①案が良いと考える。</p>
<p>早く学校ができ、子どもたちのためという観点で①案が良いと考える。</p>
<p>条件付きで①案に賛成。選挙、振動、強度等の疑義については一定の回答をしていると思うが、それ以外で回答を保留している部分について、明確な回答を示すべき。具体的には、グラウンドを使用できない期間、全体工期等について明確な回答を示した上でもなお、③案が①案を凌駕するに至らないのであれば、①案で良いと考える。</p>
<p>学校に近い人ほどご理解とご協力を得る必要があると考える。皆さんの意見で取り入れられるものを汲みつつ、改築案を検討して行ってほしいと思う。 案としてはどちらかと言えば、①案が良いと考える。</p>
<p>将来の子どもたちために、③案がベストだと考える。持ち帰って検討したい部分もあるため、今日で結論を出すのはやめてほしい。</p>
<p>向陵中学校の校訓である明朗闊達に合うのは、③案だと考える。夏場の暑さも大変だが、冬場の寒さも大変だと思うので、教室が南向きの③案が良い。</p>
<p>仮設でまるまる過ごすことがないため、①案が良いと考える。</p>
<p>③案が①案を上回る余地がないのであれば、①案で良いと考える。</p>
<p>協議会の意味決定に関する意見</p>
<p>改築工事の工期等の関係で、結論を出すタイムリミットがあると思う。明確な回答を示せていない部分について、取り急ぎ回答を用意し、各委員に共有し、書面で示した上で、③案が①案を上回るのか各委員が判断し、どちらが良いか多数決をとって案を決定するのが良いのではないかと。</p>

5 協議会としての最終的な結論の出し方について

一部意見や質疑に対し、事務局から各委員に対して文書で回答を提示する。その上で各委員は、これまでの協議会での議論を踏まえ、改築案③が改築案①を上回るかどうかを判断し、書面にて回答する。委員長は各委員の回答を集約し、協議会としての

最終的な結論を出す。

以上

向陵中学校協議会 名簿

	所属	役職・係等	氏名	出欠
検討委員会メンバー	町内会・評議員関係	円山町内会連合会会長・学校評議員	三上 恒(みかみ ひさし)	○
		学校評議員	久木 利弘(ひさき としひろ)	○
		学校評議員	玉木 康雄(たまき やすお)	○
		円山第15町内会長	中村 陸男(なかむら むつお)	×
		官の森東三町内会交通安全部長	清水 順一(しみず じゅんいち)	○
		西28丁目パークマンション管理組合理事長	堺 忠顕	○
		西28丁目パークマンション自治会長	廣瀬 泰久	○
		西28丁目パークマンション管理会社	秋山 祐二	○
	PTA関係	PTA会長	南出 保(みなみで たもつ)	○
		PTA副会長	巽 亜矢子(たつみ あやこ)	○
		PTA副会長	佐々木 由希子(ささき ゆきこ)	×
		PTA副会長	藤原 希(ふじわら のぞみ)	×
		PTA総務	里井 恵子(さとい けいこ)	×
		PTA総務	瀧澤 真理子(たきざわ まりこ)	×
		PTA総務	薬師 ひとみ(やくし ひとみ)	×
		PTA会計	田頭 理(たがしら おさむ)	×
	学校関係	校長	原田 之彦(はらだ ゆきひこ)	○
		教頭	保格 諭(ほかく さとし)	○
		事務職員	小中出 亘(こなかで わたる)	○
		事務職員	西島 咲(にしじま さき)	○
20名				
札幌市関係	教育委員会生涯学習部 学校施設課	学校施設担当部長	池田 秀利(いけだ ひでとし)	○
		学校施設課長	宮野 純一(みやの じゅんいち)	○
		計画係長	高橋 正樹(たかはし まさき)	○
		計画係	石垣 敬寛(いしがき たかひろ)	○
		施設整備係長	伊藤 哲夫(いとう てつお)	○
		施設整備係	吉岡 佑樹(よしおか ゆうき)	○
	都市局建築部 建築工事課	工事三係長	山崎 大史(やまざき たいし)	×
		工事三係	瀬川 大樹(せがわ たいき)	○
		電気設備課	島 浩輔(しま こうすけ)	×
		機械設備課	和島 順也(わじま じゅんや)	×
	株式会社 大建設	副所長	北原 和俊(きたはら かずとし)	×
		設計室 室長	松本 渉(まつもと わたる)	○
		設計室	小澤 光理(こざわ ひかり)	○
	北日本技術コンサル	建築設計部次長	近藤 育男(こんどう いくお)	×
建築設計部電気次長		斉藤 慎幸(さいとう のりゆき)	×	
建築設計部機械担当		中村 悠佑(なかむら ゆうすけ)	×	
16名				